



# 産婦に寄り添う産科縫合手技 ～帝王切開・会陰裂傷後のQOLと機能を守る～

## 座長



## 齋藤 昌利

先生 東北大学大学院医学系研究科 周産期学分野/婦人科学分野

## 演者



## 春日 義史

先生 慶應義塾大学医学部 産婦人科教室

帝王切開は産婦人科医なら誰でもできないと困る手術であり、最も身近な手術の1つです。帝王切開で重要なのは赤ちゃんを元気に出すことではありますが、機能温存手術であることを忘れてはなりません。帝王切開を受けた女性はその後その傷や子宮と付き合いしていく必要があります。みなさんは長期的な健康まで見据えた、産婦に寄り添った帝王切開を施行していますか？本セミナーでは帝王切開の手技について改めて考えていきたいと思います。



## 末光 徳匡

先生 東京慈恵会医科大学 産婦人科学講座

会陰裂傷は、分娩後の疼痛や骨盤底筋群機能障害を通じて、産婦のQOLに長期的な影響を及ぼしうる重要な産科外傷です。本講演では、会陰の解剖・適切な会陰切開、2度裂傷からOASISまでの診断・縫合手技・術後管理を概説します。特にOASISについては、臨床診断のポイント、肛門括約筋修復、術後急性期から次回分娩までの管理を取り上げ、産婦に寄り添う会陰縫合のあり方を考えます。

学会HP ▶ <https://www.congre.co.jp/jspnm2026/>

● 本学術集会のランチョンセミナーは整理券制です。

※整理券の取得方法は、第62回日本周産期・新生児医学会学術集会Webサイトにてご確認ください。

共催：第62回日本周産期・新生児医学会学術集会／ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社